

高山市における 就労者の子育て環境に関する現状と課題

- 西山里利（目白大学人間学部）
 峯村恒平（目白大学高等教育研究所）
 藤谷哲（目白大学人間学部）

はじめに

高山市における子育て環境の現状と課題を明らかにするため、乳幼児から高校生までの子どもを持つ保護者を対象とした生活実態に関するアンケート調査を 2018 年に受託研究として実施した。

今回は、就労者の子育て環境に焦点を当て、今後に向けた課題について報告する。

目的

高山市における子育て環境に関する現状と課題に関する調査（受託研究）のうち、就労者の子育て環境に関する課題について、今後の支援のあり方について検討する。

研究方法：調査方法

調査期間：2018年9月中旬～10月末日

対象：以下の条件を満たす市内の保護者
住民基本台帳をもとに無作為抽出

乳幼児（0～5歳）の保護者	1,000人
小学生の保護者	1,000人
中学生および高校生の保護者	各500人

想定回収数 1,500（回収率50%想定）

分析方法

- ・ 単純集計
- ・ クロス集計
- ・ 内容分析

倫理的配慮

研究の主旨，目的および方法，協力は自由意思であること，回答を拒否しても不利益を被らないこと，個人および家族・家庭を評価するものではないこと，回答および返信用封筒は無記名であること，かかる時間，統計学的処理により個人が特定されないこと等を依頼文に明記した。

就労者に係わる子育て支援

高山市子どもにやさしいまちづくり計画
(令和2年3月策定) 計画の時点で既に、子育て短期支援事業、一時預かり事業、病児保育事業、放課後児童クラブ等が行われており、現在も継続されている。

結果：有効回答数

乳幼児（0～5歳）の保護者	466人 (46.6%)
小学生の保護者	525人 (52.5%)
中学生および高校生の保護者	477人 (47.7%)

幼児教育や保育サービスの充実

(今回報告の範囲)

- ・ 延長保育、一時保育、休日保育、子育て短期支援事業の実施
- ・ 放課後児童クラブの充実
- ・ 病児保育の実施
- ・ 3歳未満児の増加への対応
- ・ 保育園施設の整備

仕事と生活の調和の推進

(今回報告の範囲)

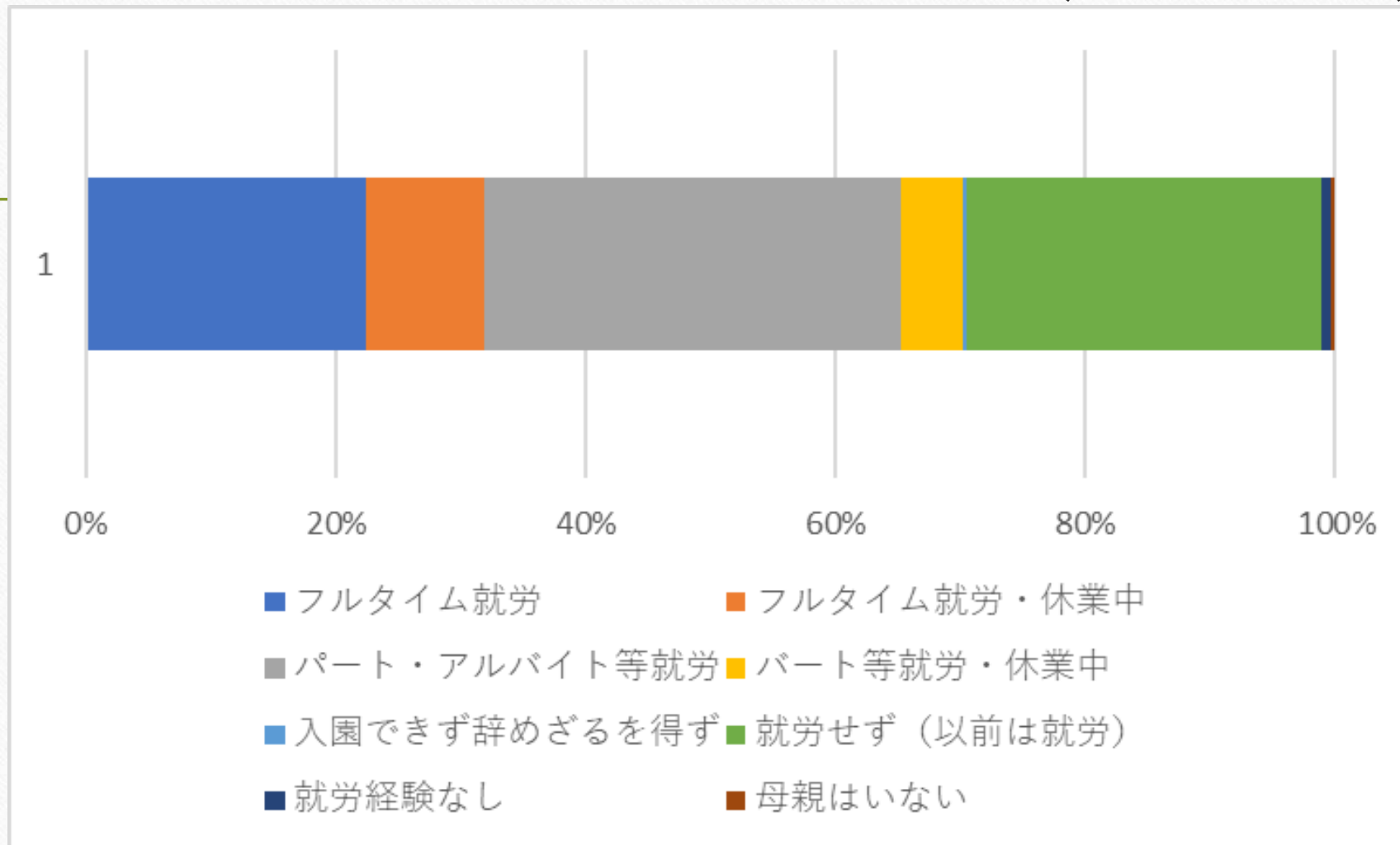
- ・子育て家庭を支援する就労環境の整備促進
- ・職場で学ぶワーク・ライフ・バランス研修の実施
- ・子育て家庭の就職活動の支援
- ・事業所内託児所の整備促進

幼児教育や保育サービスの充実

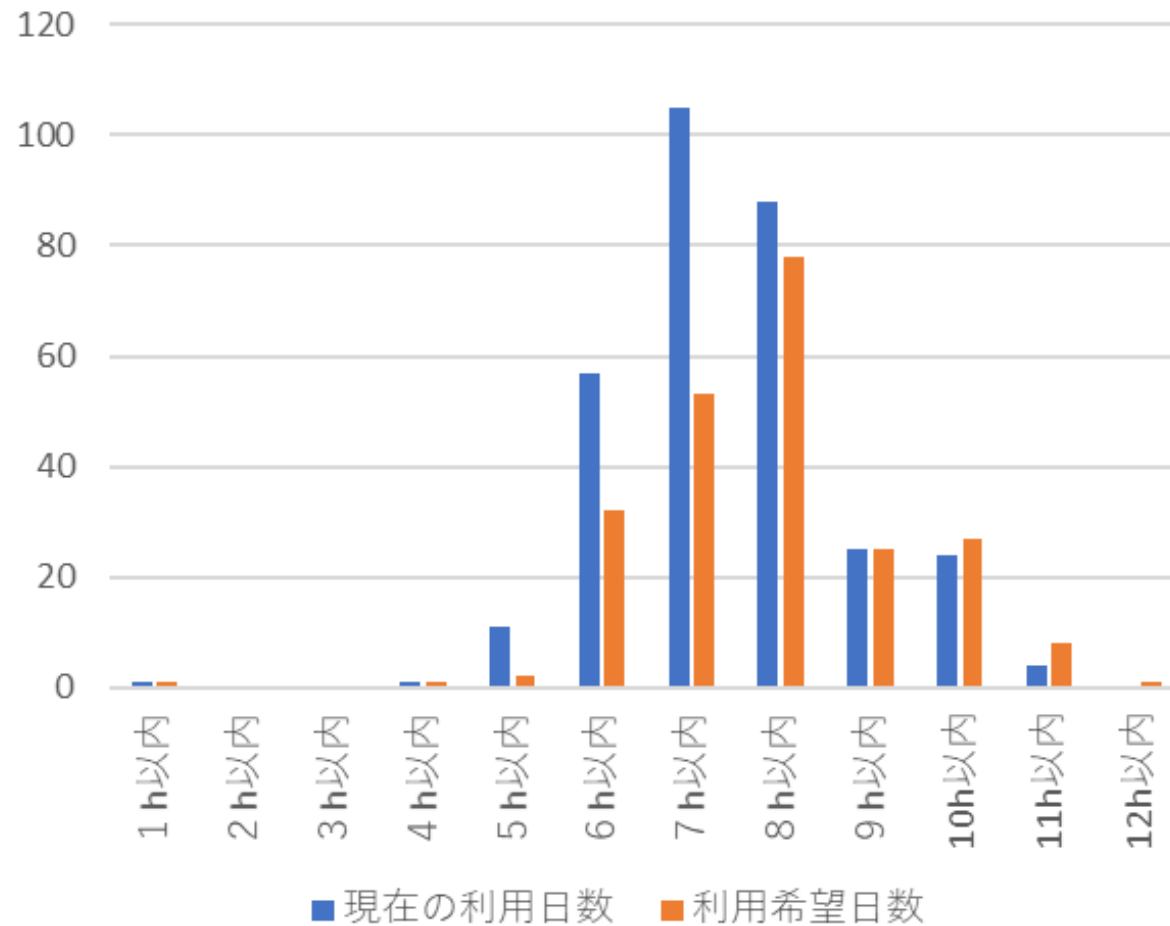
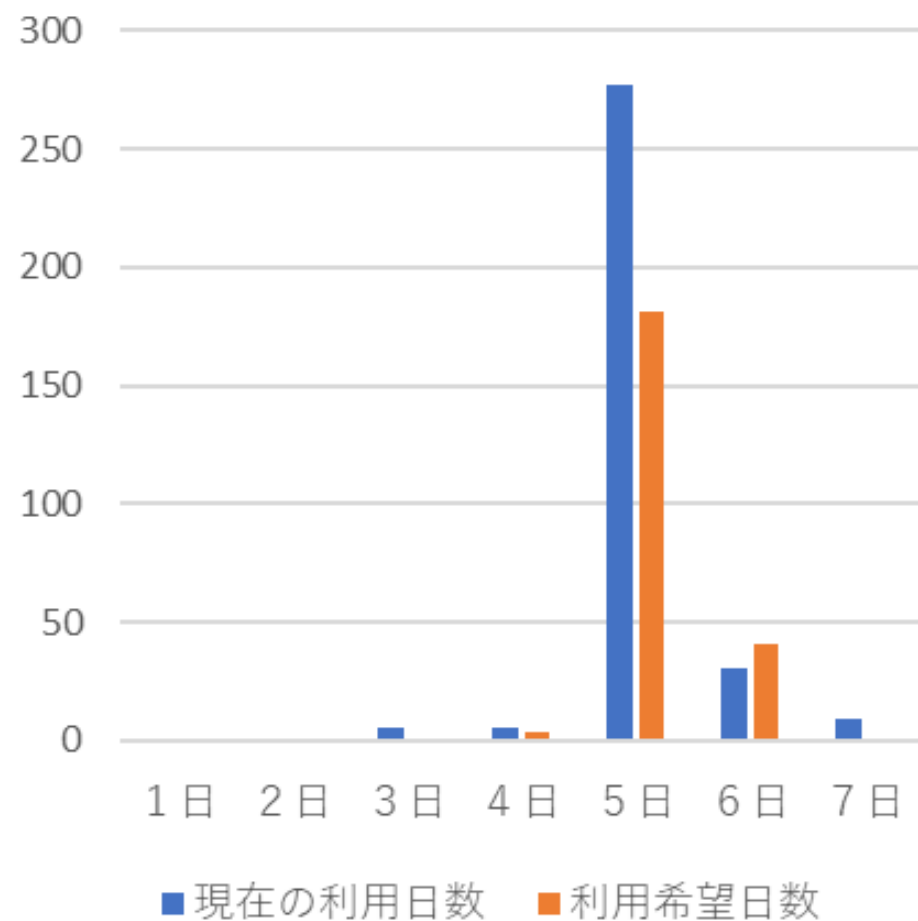
(今回報告の範囲)

- ・ 延長保育、一時保育、休日保育、子育て短期支援事業の実施
- ・ 放課後児童クラブの充実
- ・ 病児保育の実施
- ・ 3歳未満児の増加への対応
- ・ 保育園施設の整備

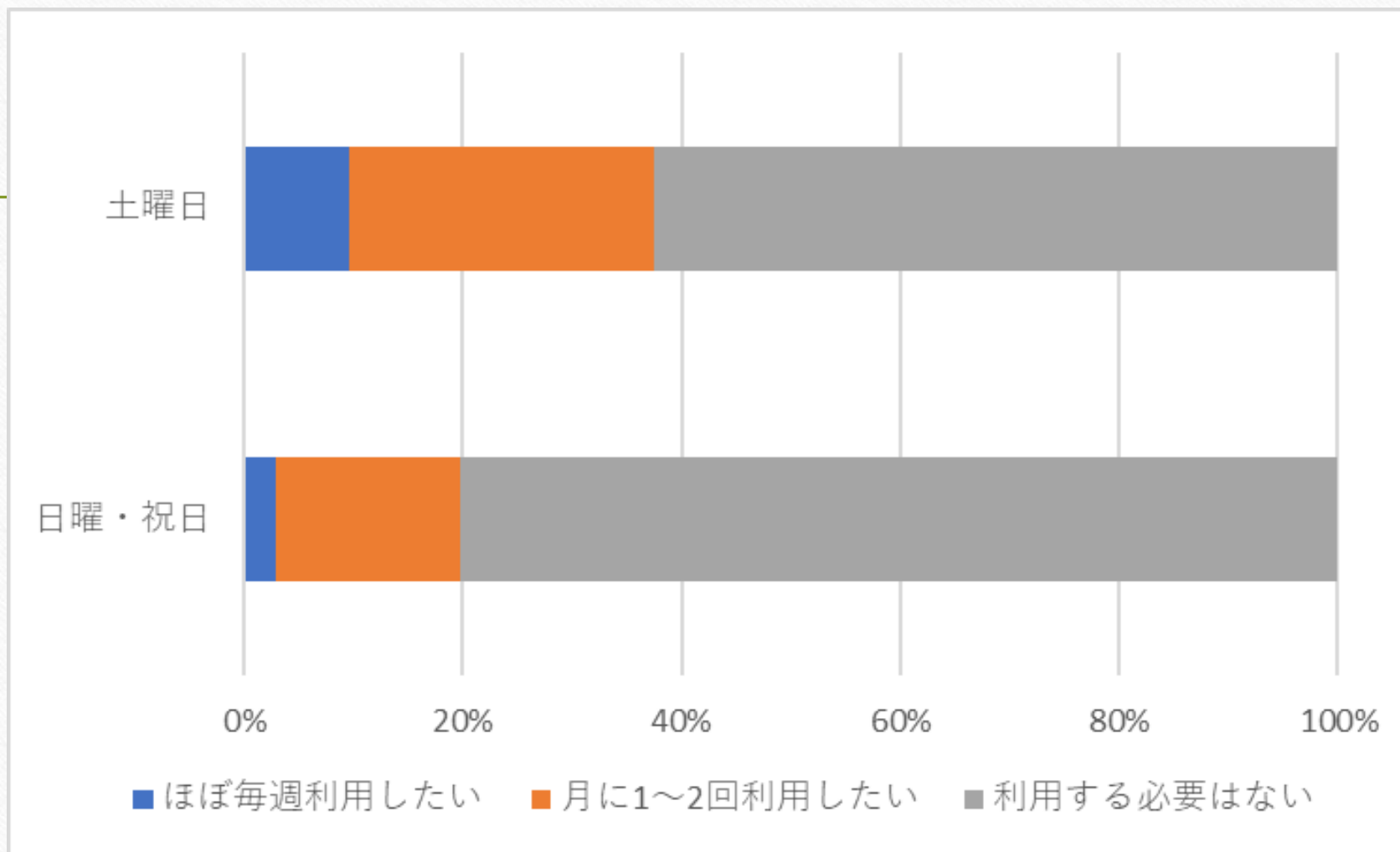
母親の現在の就労状況（乳幼児）



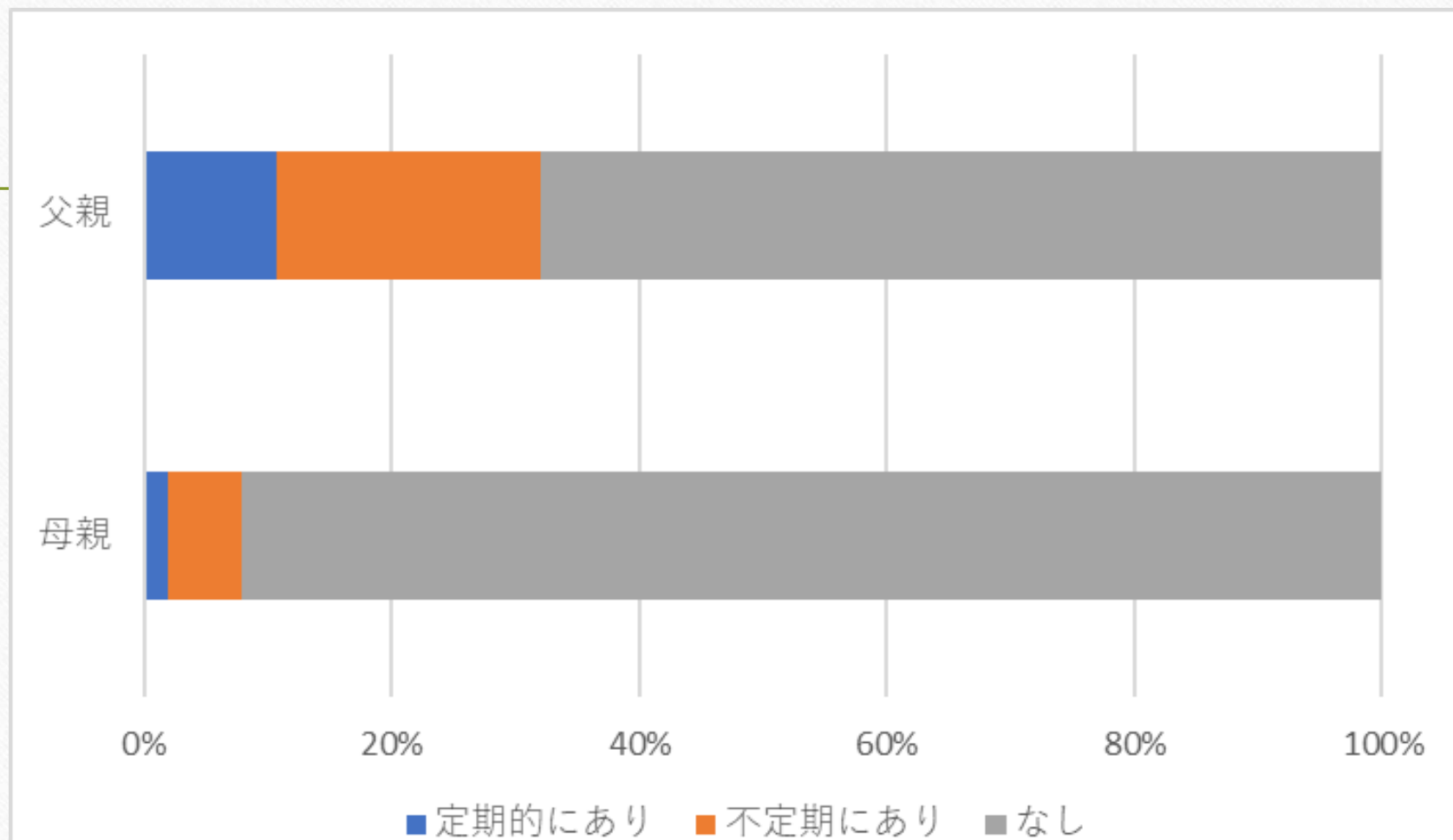
定期的に利用している教育・保育事業



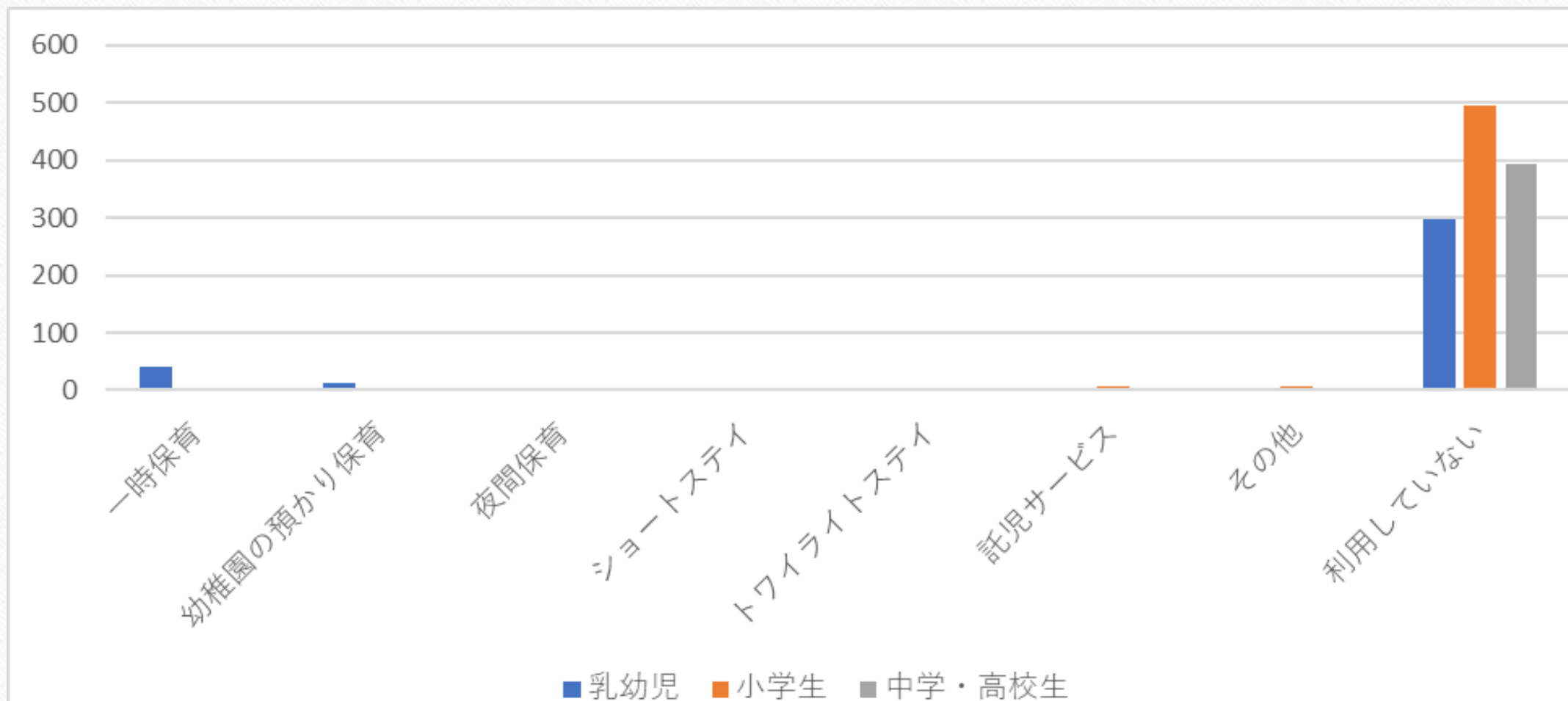
教育・保育事業の利用希望（乳幼児）



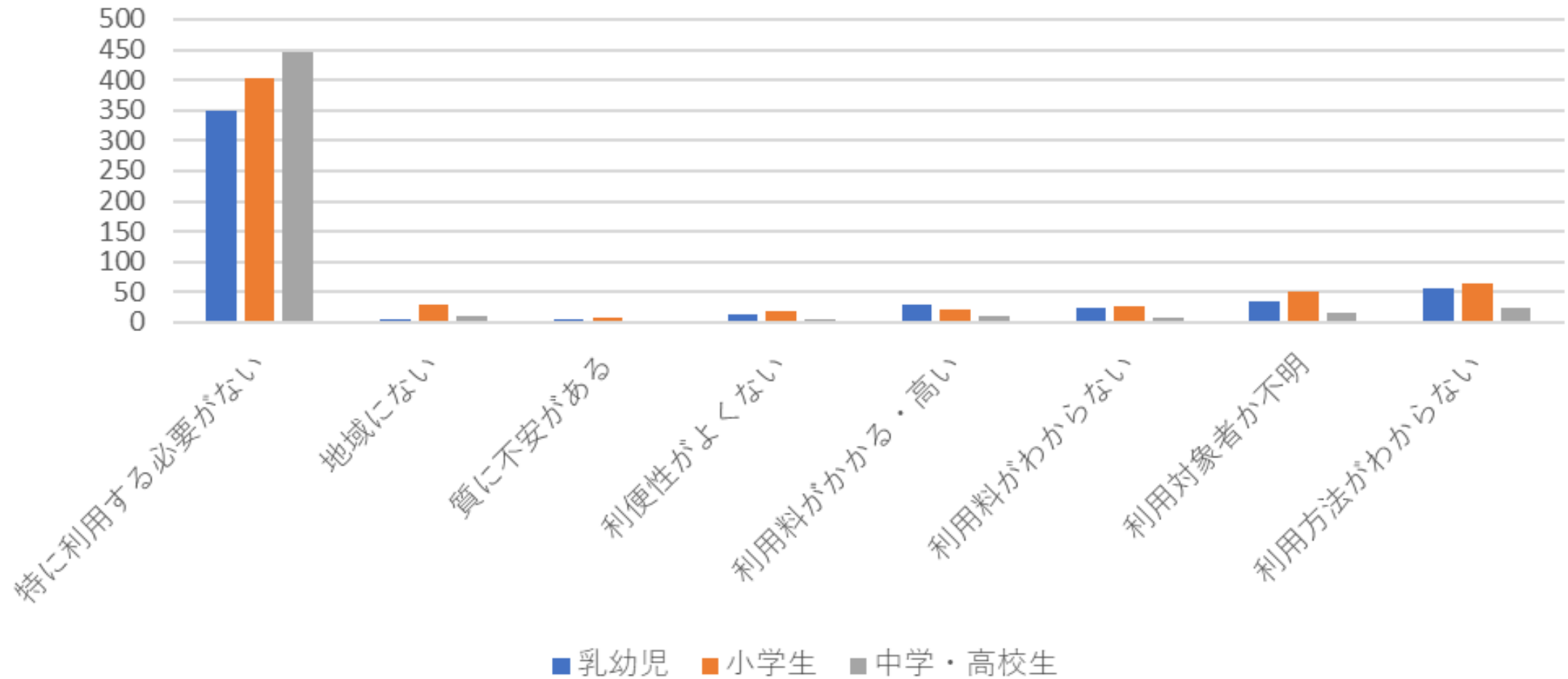
乳幼児の父母の勤務状況（深夜労働）



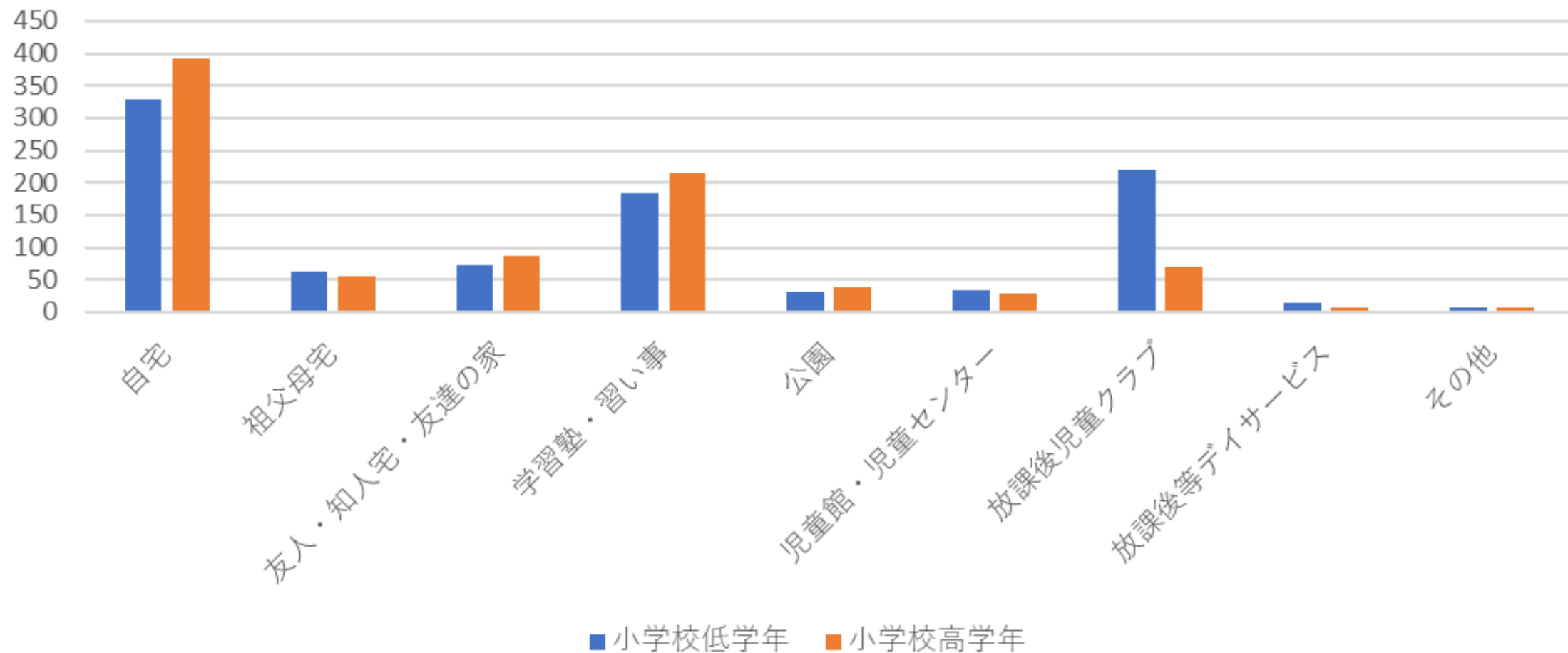
不定期に利用している教育・保育事業や一時預かり等



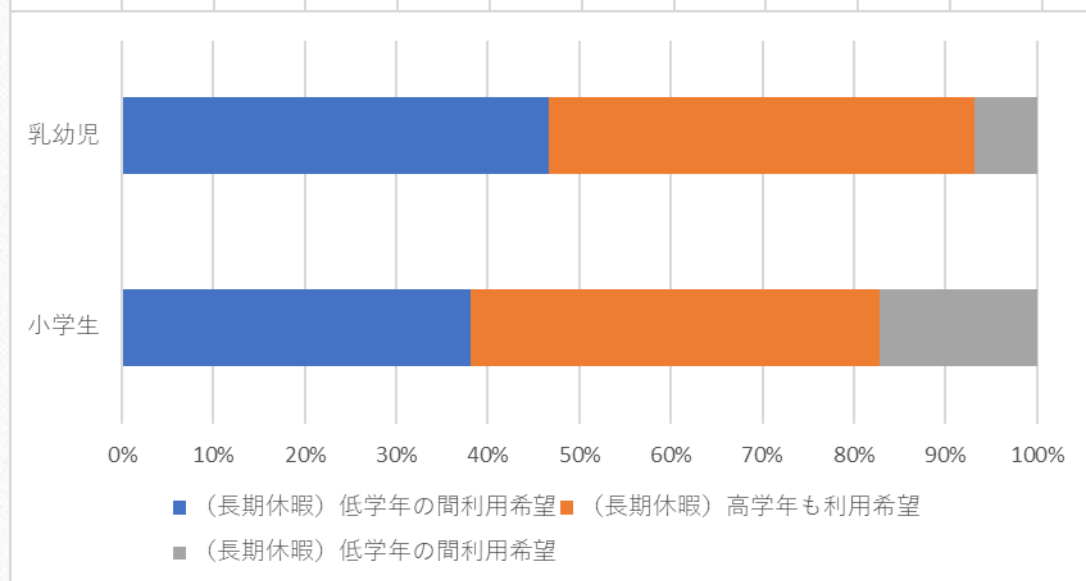
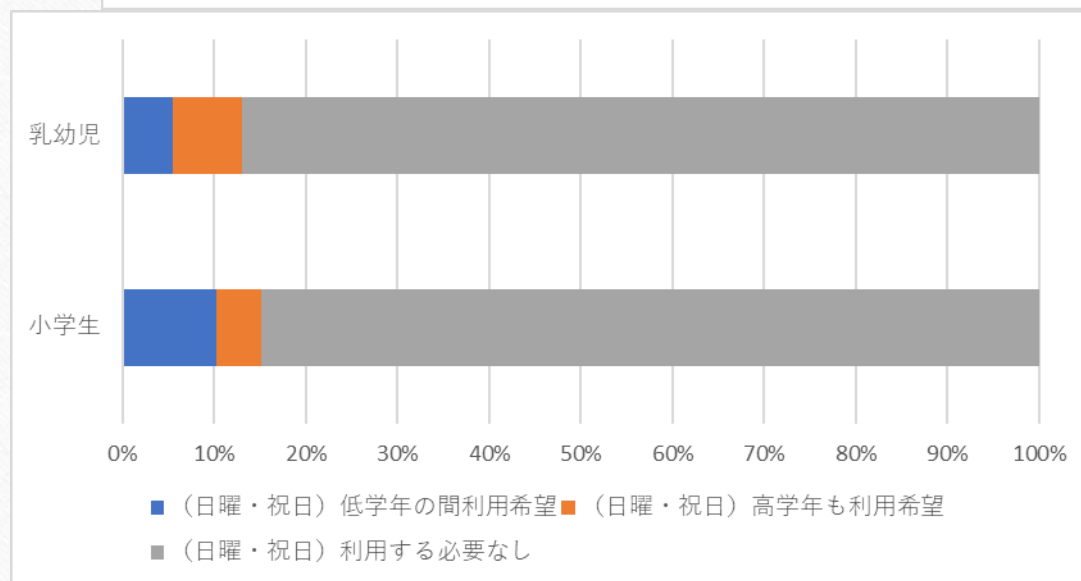
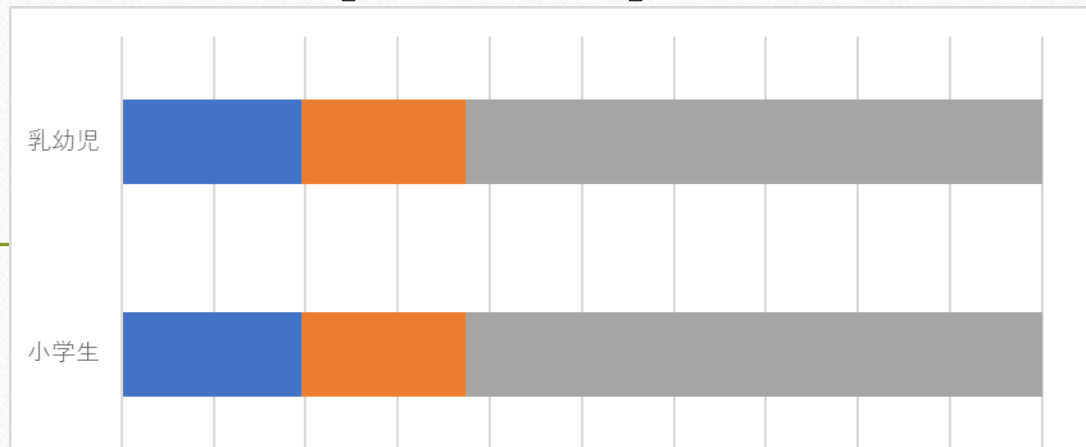
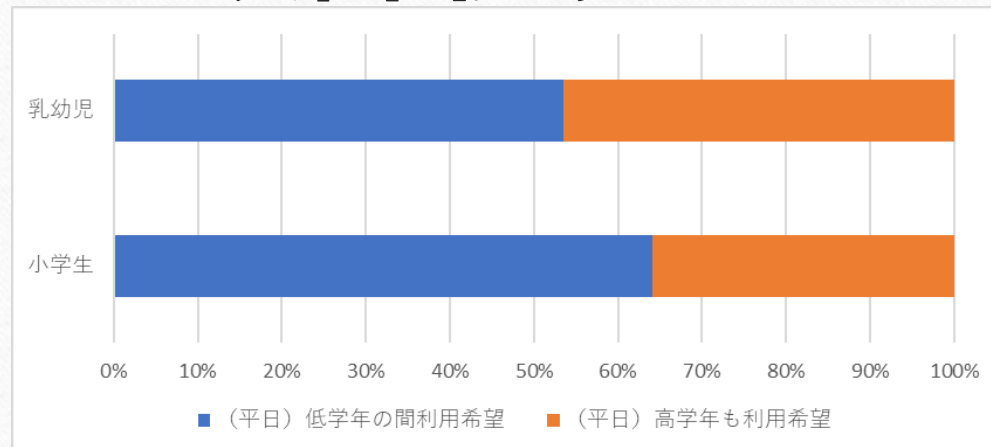
現在利用していない理由



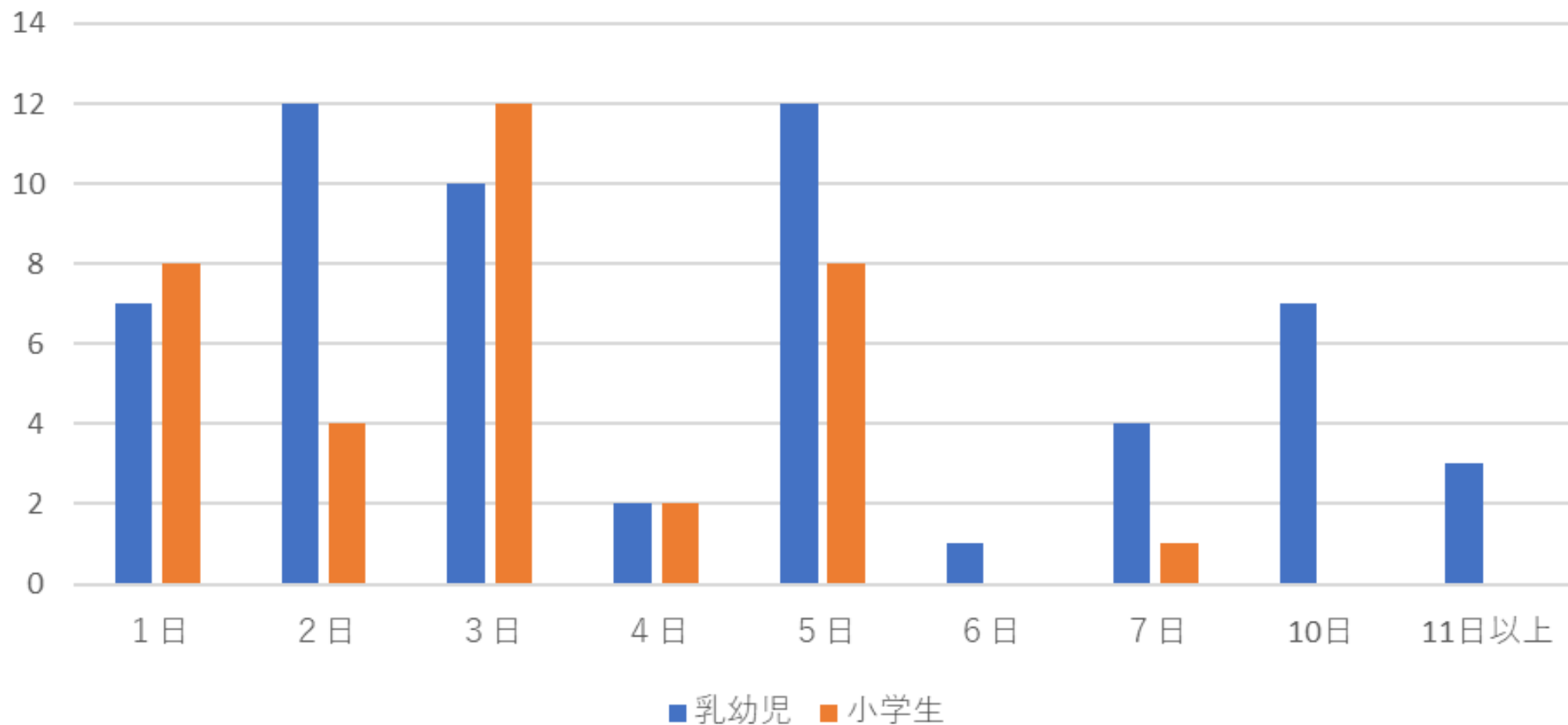
放課後過ごす場所（平日の学校終了後）



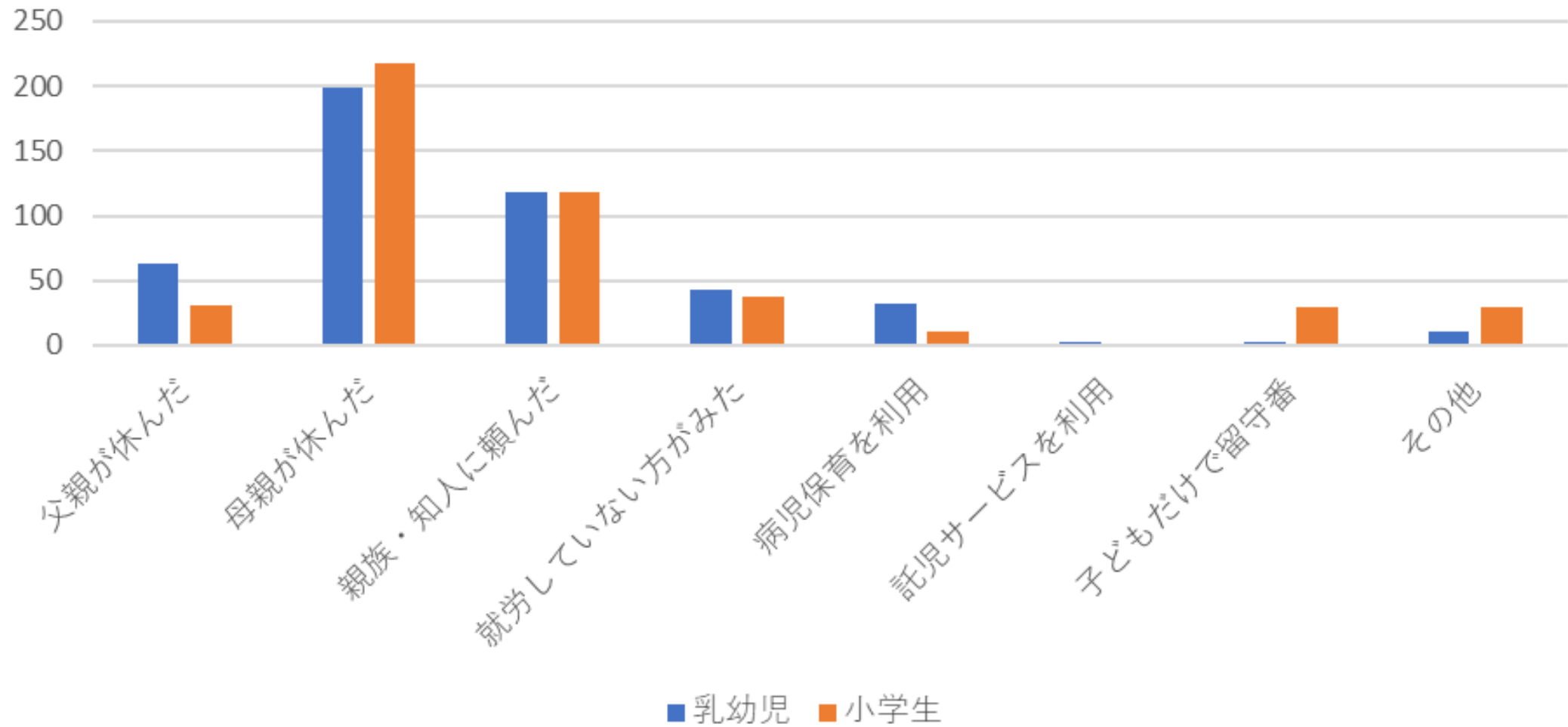
放課後児童クラブの利用希望



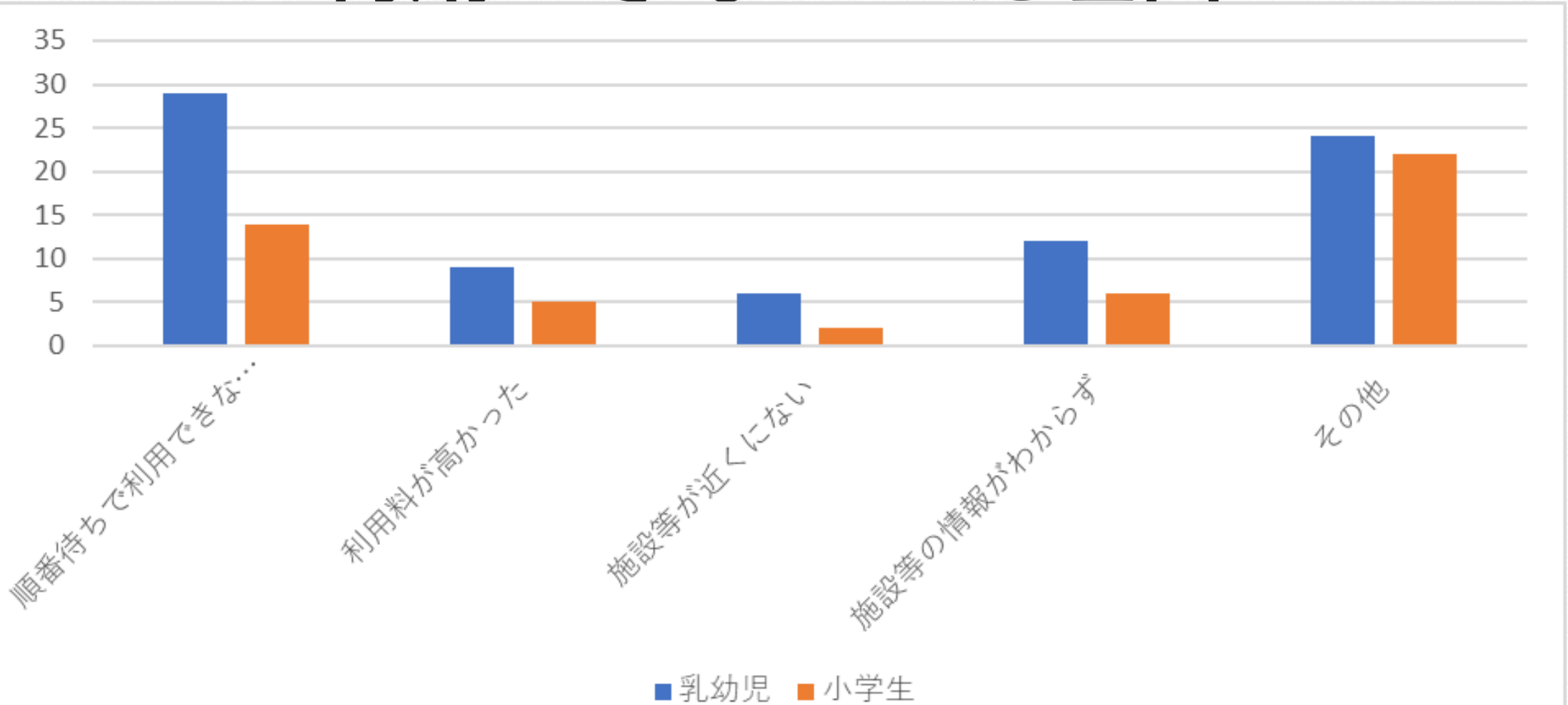
病児保育施設等の利用希望日数



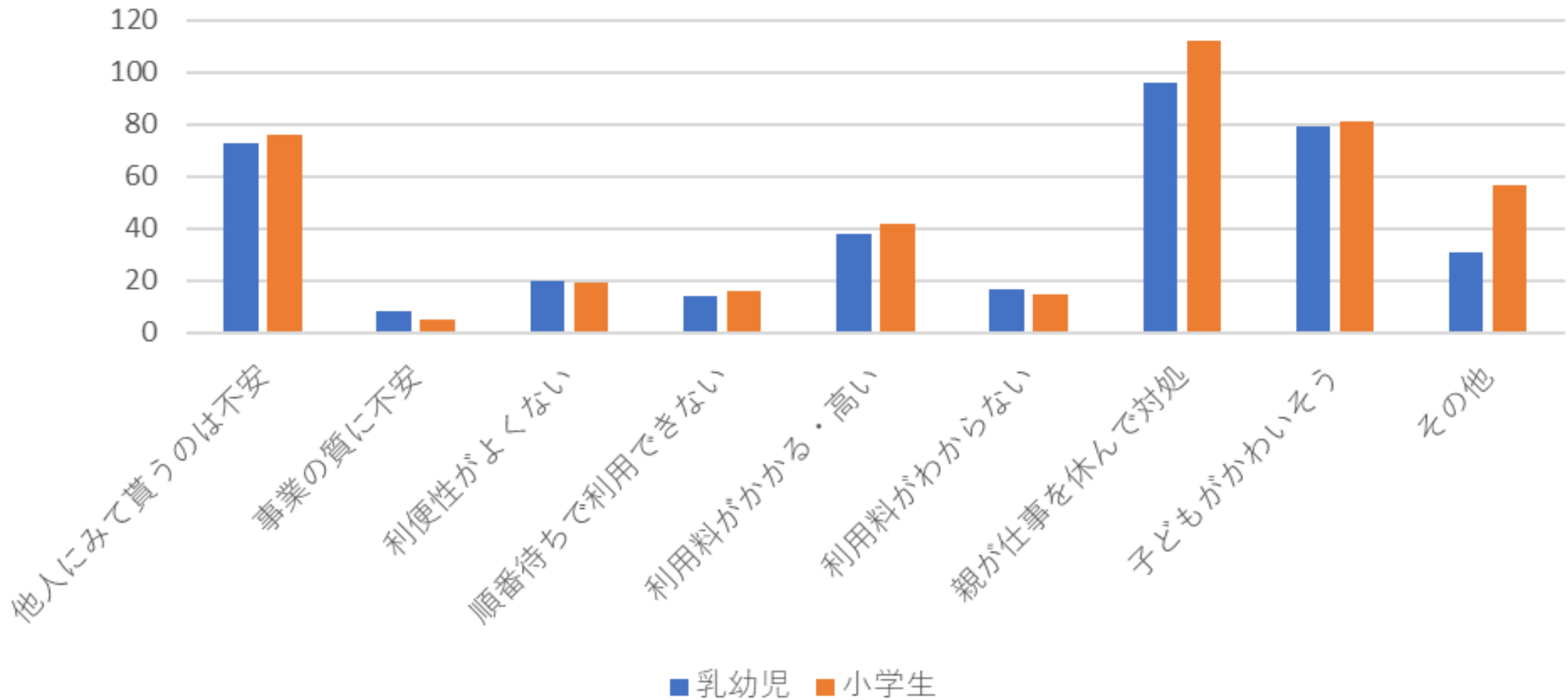
子どもの傷病時の対処



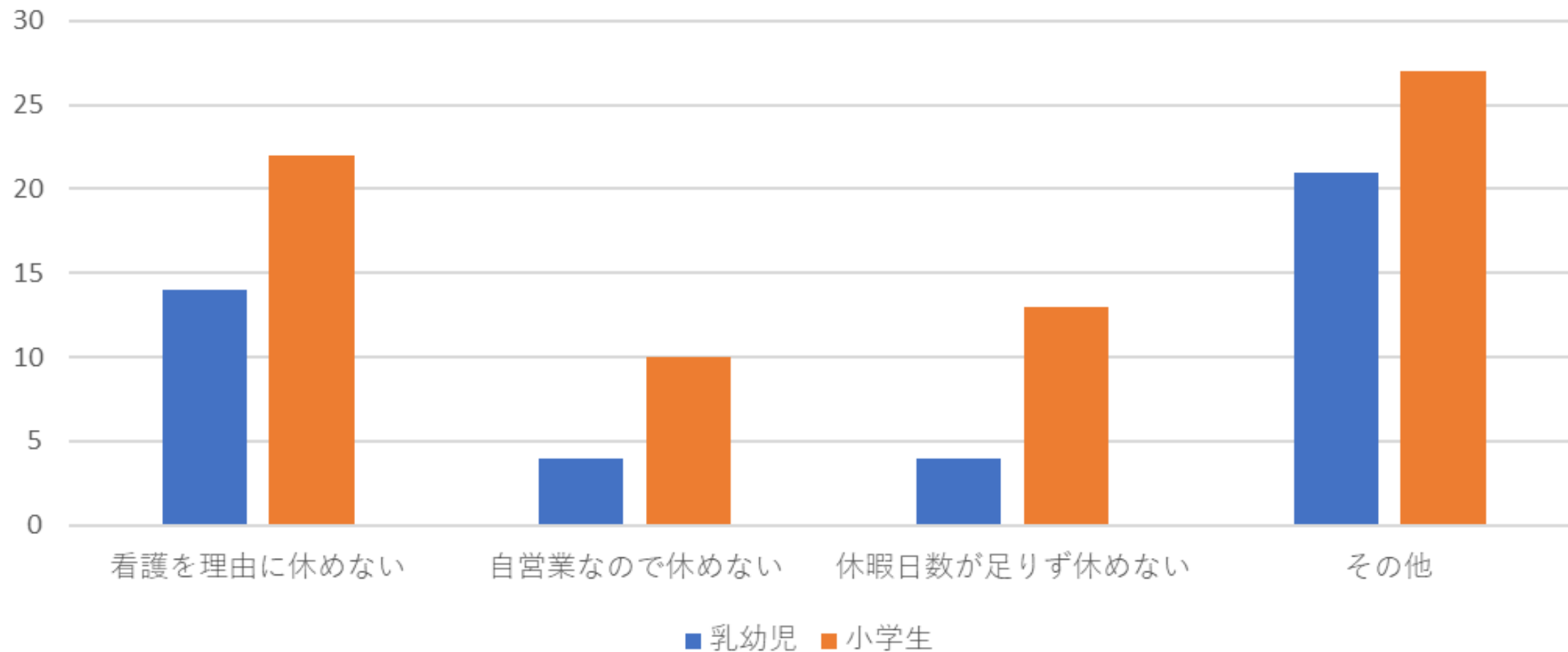
利用できなかった理由



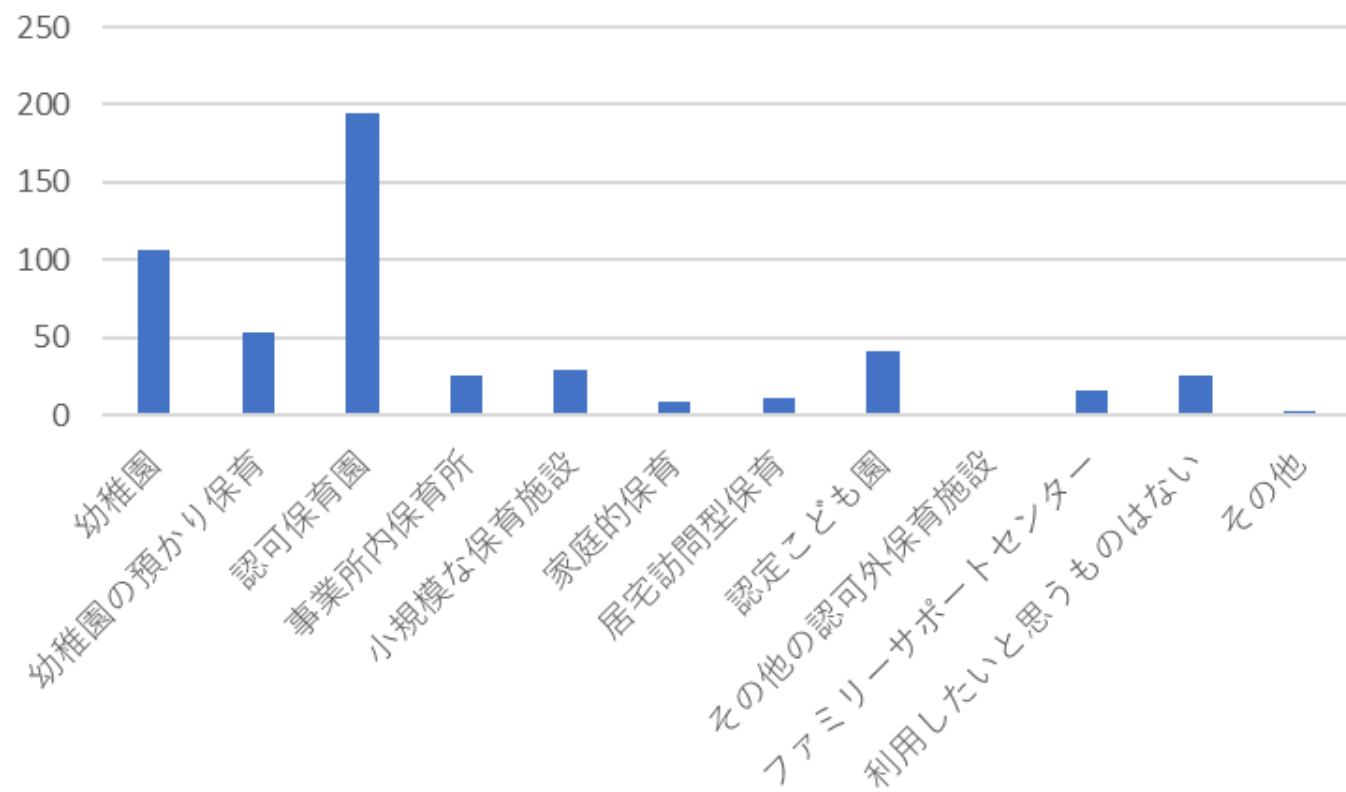
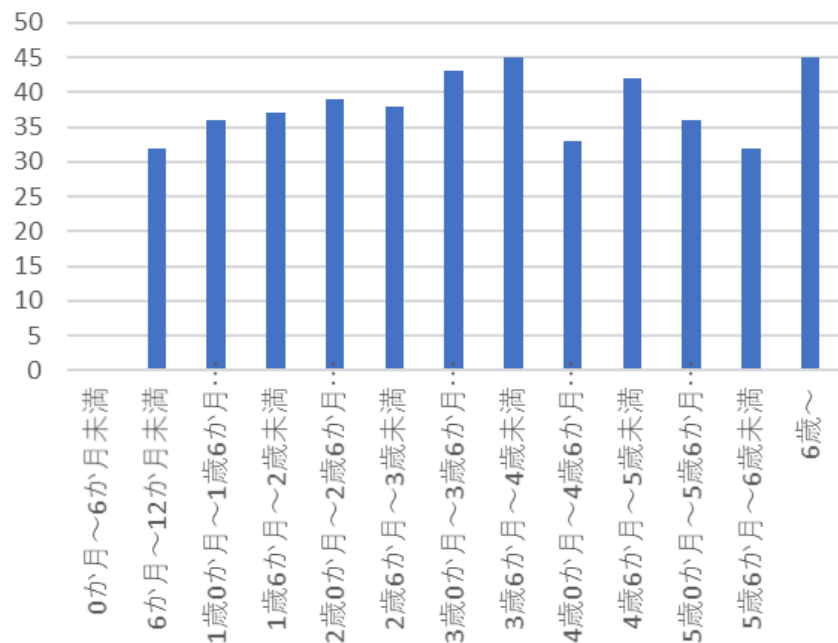
利用したいと思わない理由



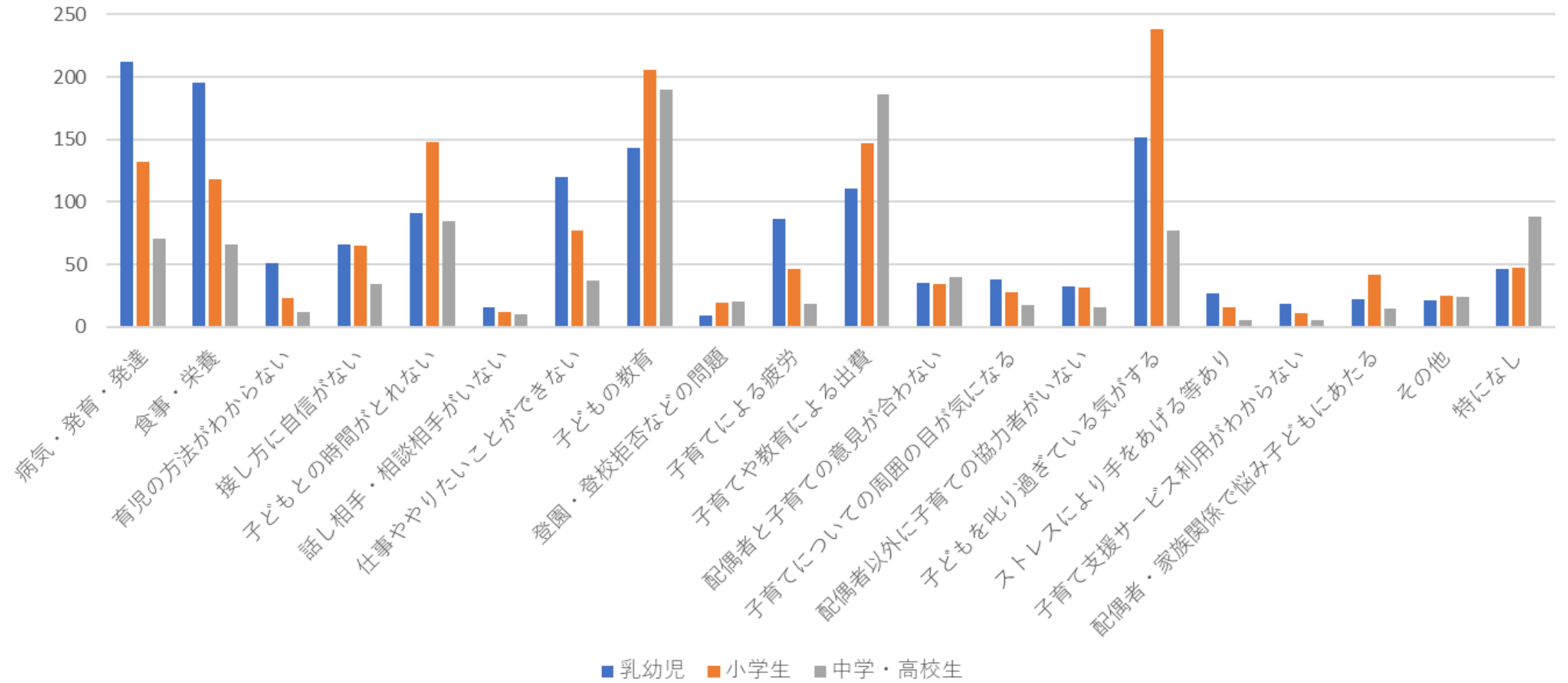
休んで看病することが非常に難しい理由



乳幼児の年月齢／定期的に利用したい事業



子育ての悩み（全体）

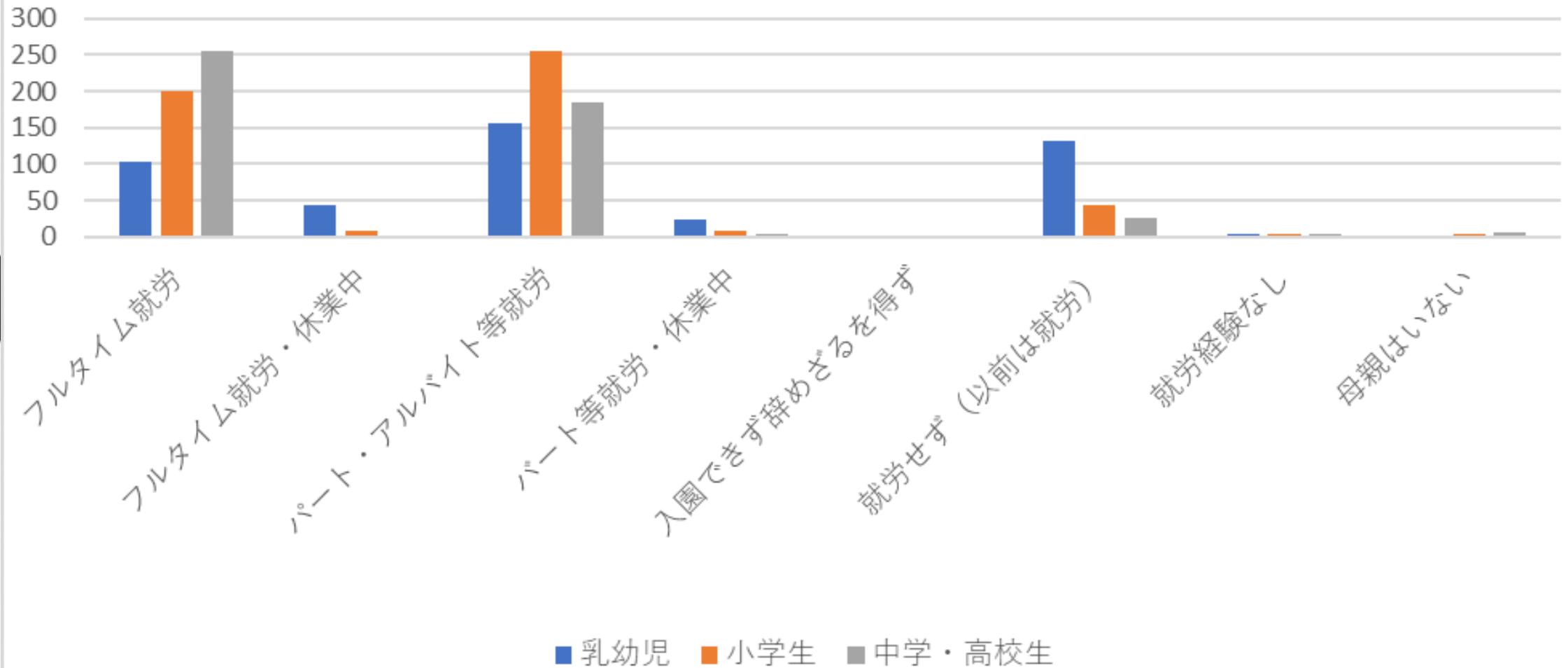


仕事と生活の調和の推進

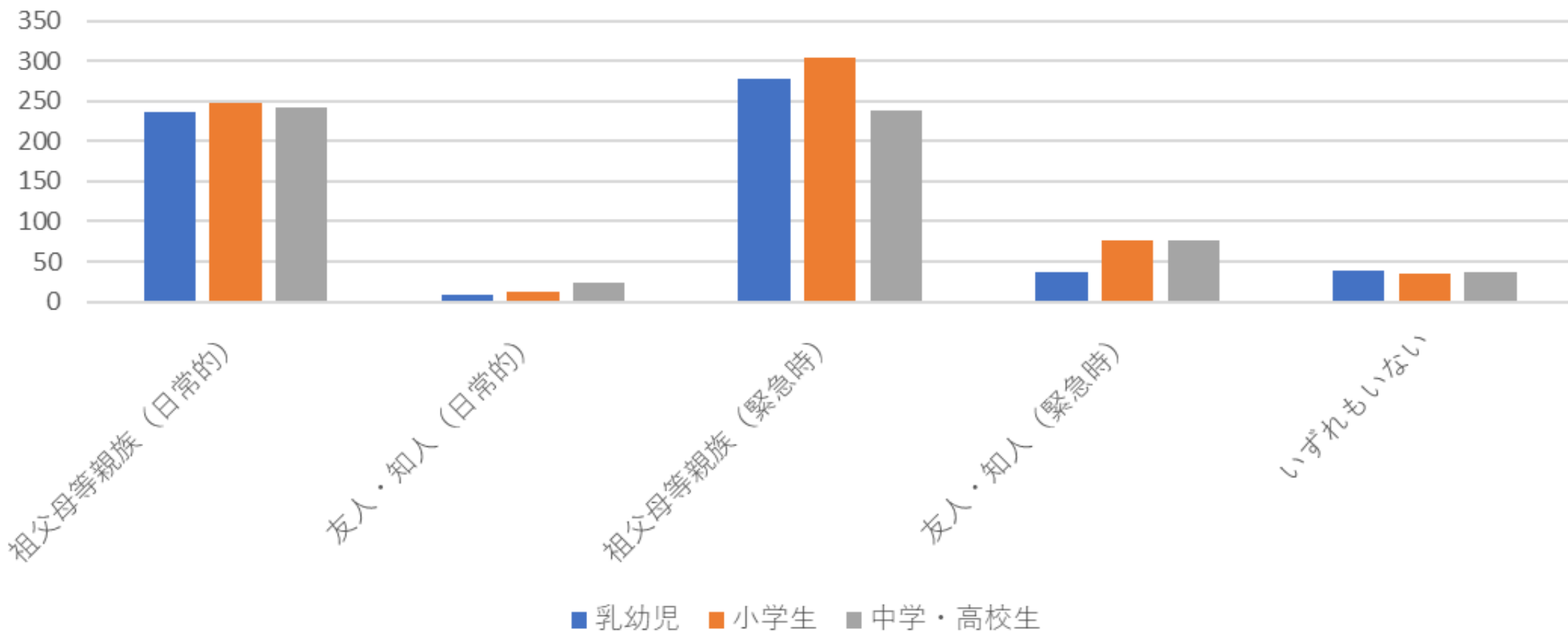
(今回報告の範囲)

- ・子育て家庭を支援する就労環境の整備促進
- ・職場で学ぶワーク・ライフ・バランス研修の実施
- ・子育て家庭の就職活動の支援
- ・事業所内託児所の整備促進

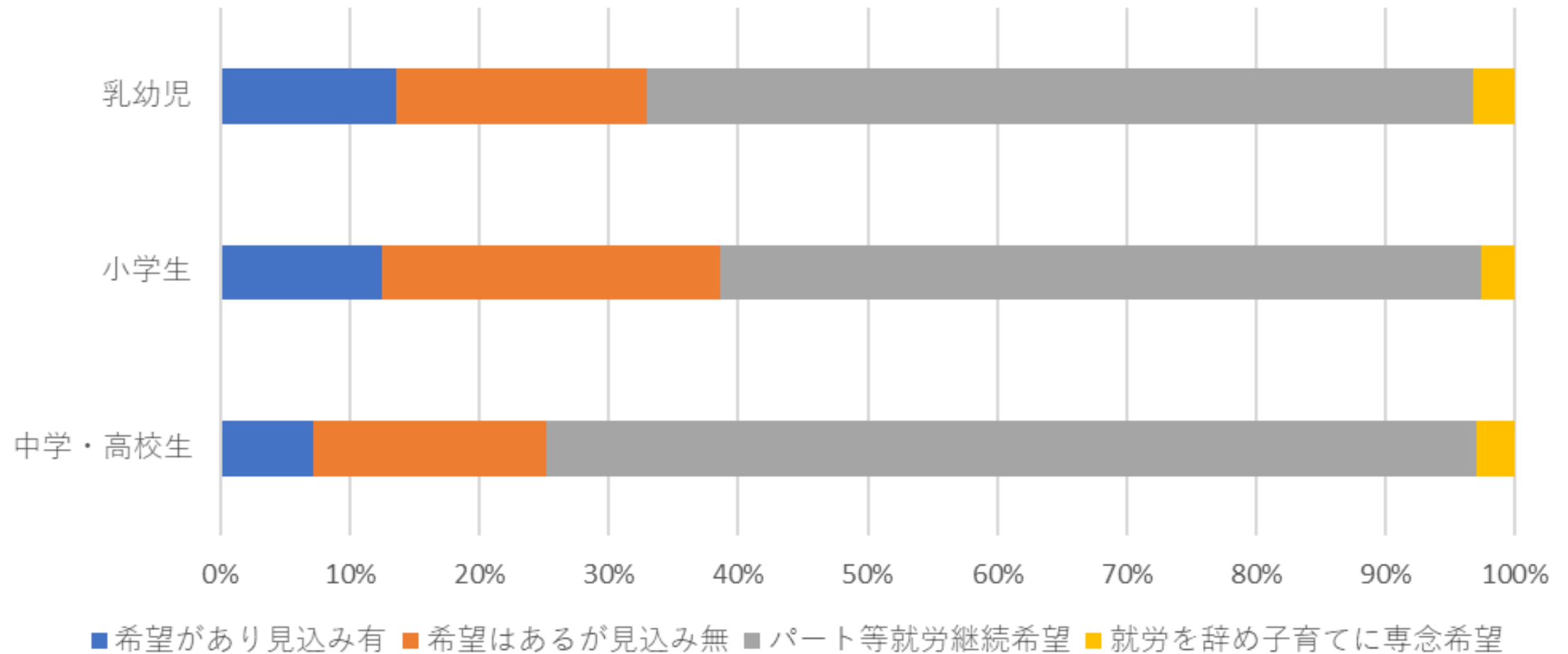
母親の現在の就労状況



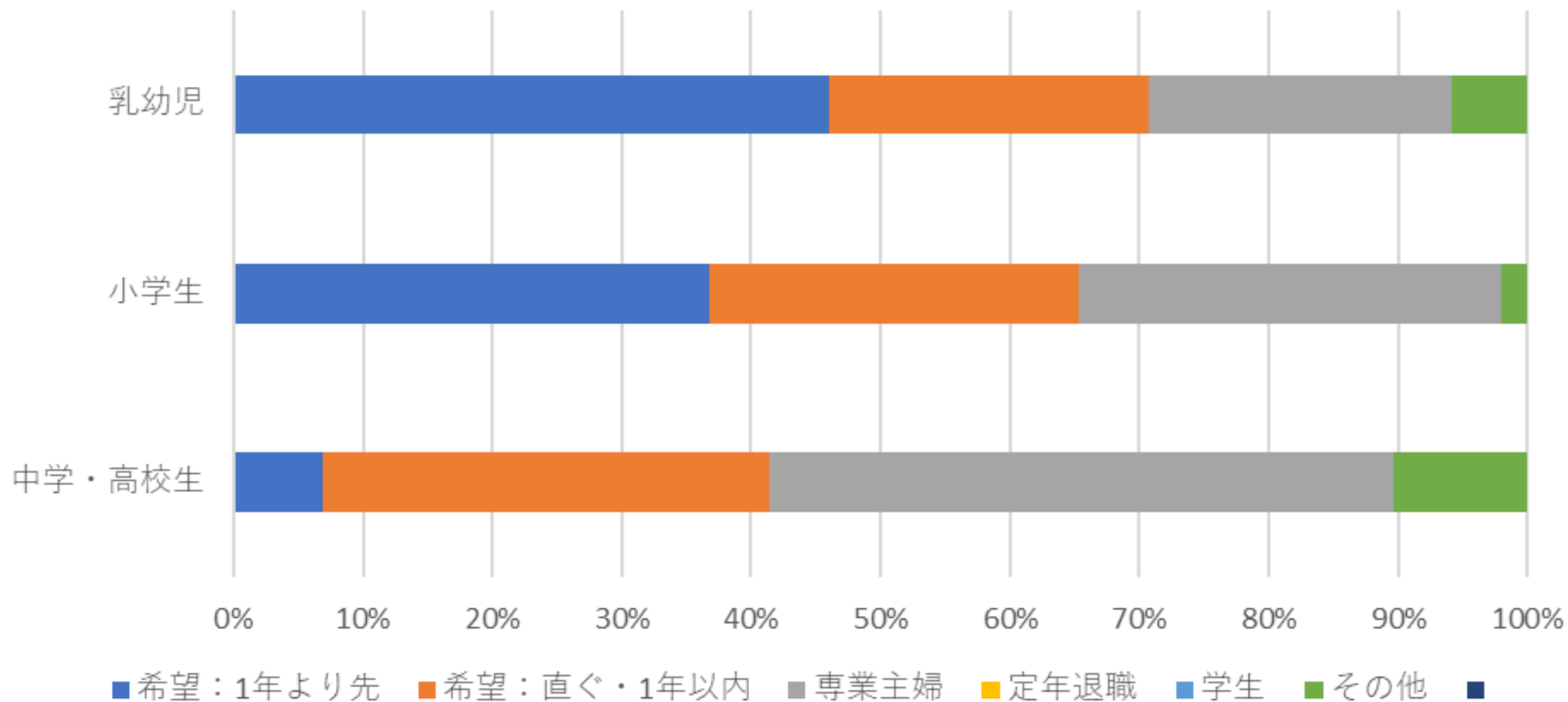
子どもをみて貰える親族・知人



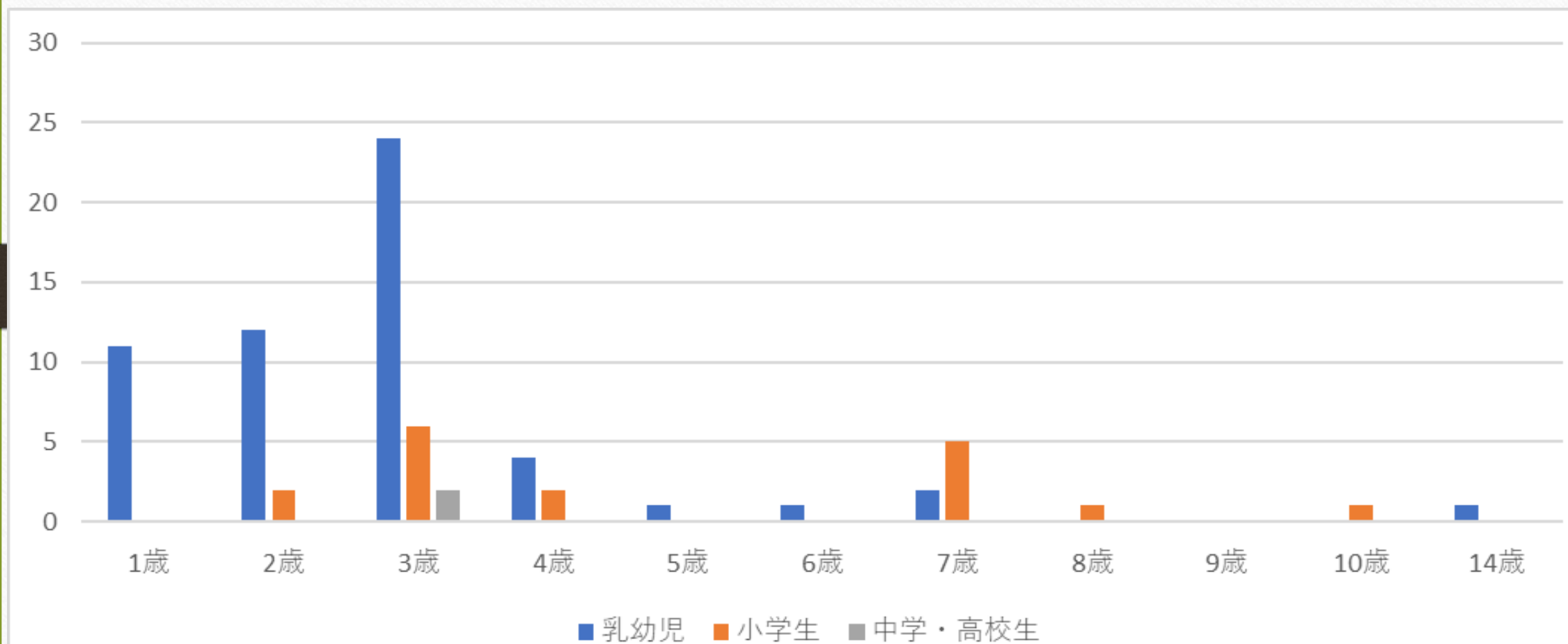
母親のフルタイムへの転換希望



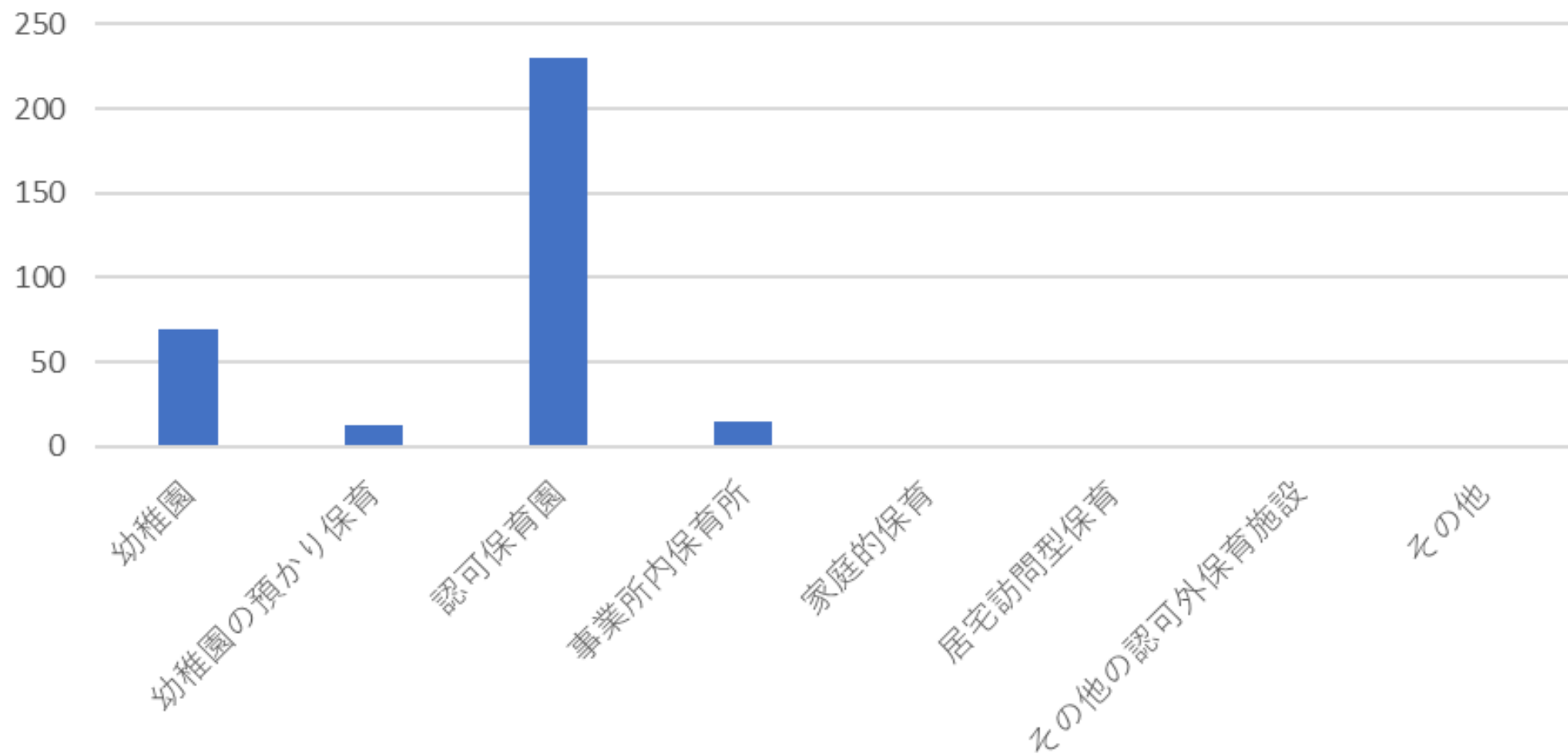
母親の現在の状況と就労希望



母親の就労希望時期（一番下の子どもの年齢）



定期的に利用している保育事業



結果 まとめ

- ・概ね利用者の希望通りサービスが行われていたが、利用手続き等に関する情報不足により利用に至らない者も一定数いた。
- ・病児保育では、ニーズはあるものの、保護者の多くは、母親あるいは親族・知人にみてもらうとの回答が多かった
- ・乳幼児、特に 3 歳未満児の保育の利用ニーズが高かった。
- ・乳幼児の母親は、フルタイムへの転換希望はあるが見込みなしが 2 割程おり、意思に反して就労できない状況であった。
- ・仕事ややりたいことが子育てによって十分できないこと、子育ての協力者がいないこと等の悩みがあった。

考察 幼児教育や保育サービスの充実

概ね保育サービスに満足



現行の保育サービスを継続していく

保育サービスを利用していない理由

- ・利用のための手続きがわからない
- ・手続きの面倒さ



- ・サービスの広報を引き続き行う
- ・**評価**を行っていく必要がある
 - ・情報提供のわかりやすさ等
 - ・手続きのしやすさ
 - ・・・誰もが使いやすい方法の検討

考察 仕事と生活の調和の推進

子育てにより仕事ややりたいことが十分できないことや協力者がいないとの悩み

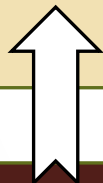


現行の保育サービスの充実と**広報**を引き続き行っていく

フルタイムへの転換希望はあるが見込みなしが2割程おり、意思に反して就労できない状況



保育サービスを継続していくと共に、サービスの場で得られる**保護者の声**を**吸い上げ**ていく



十分満足しているわけではないが、パート・アルバイト等による就労が総合的に母親や配偶者の意思に近い就労の仕方になっていると考えられる

参考文献

- ・ 太田仁・村上由衣（2018）母親の家庭・職場環境による子育てストレスの差と保育園・幼稚園への期待，梅花女子大学心理こども学部紀要，8，17-34.
- ・ 三輪聖子（2020）親の子育てに関する意識と実態—岐阜県山県市の場合—，岐阜女子大学紀要，49，43-52.

ご清聴ありがとうございました
